

AMR ワンヘルス東京会議

成果文書（議長サマリー）（仮訳）

2019年2月20日、21日

2019年2月20日及び21日、日本国政府厚生労働省と世界保健機関西太平洋地域事務所の主催でAMRワンヘルス東京会議を開催した。

会議にはアジア太平洋地域17カ国の保健または農業を所管する省庁及び関連協力機関が参加した。参加国を代表してモンゴル政府保健大臣が基調演説を行った。

本会議は、2016年4月に開催され、「AMRに関するアジア太平洋ワンヘルス・イニシアチブ（ASPIRE）」の創設を宣言した、アジアAMR東京閣僚会議を引き継ぐものである。

開催目的

1. ハイレベル公約に則ったワンヘルスアプローチを強化する仕組みのASPIREが、AMRに関するグローバルアクションプランの実現に向けて、どのような形で貢献できるかを議論する。
2. AMRに関する国家行動計画（NAP）の枠組みの中で、ASPIREを実施、評価するために必要な政治的、戦略的、技術的支援を明確にする。
3. 国及び地域レベルで、多分野にまたがる領域をまとめ上げるための機能的かつ効果的な仕組みを構築するための戦略及び手法を参加国が策定することを、FAO、WHO、OIEの3機関と共同で支援する。

成果（確認事項）

1. AMRは、国際的にもアジア太平洋地域においても共通の脅威である
 - 薬剤耐性が地域の健康や持続的発展にとってますます脅威となっている。
 - ユニバーサルヘルスカバレッジの達成がAMR対策において重要である。
 - AMRが、治療困難な感染症の発生と、貧困層にとって多大な負担である医療費高騰に寄与していることが証明されている。
 - 過度な負担にさらされているヘルスシステムと、資源や財源が不足している状況下で、AMRのリスクは増大し続けている。
2. アジア太平洋地域におけるAMR対策は確実に進んでいる
 - これらの課題があるものの、多くの国においてAMR対策の効果が出ている
 - ワンヘルスアプローチとは、ヒト、農業、水産、動物の領域間に存在する複雑な状況を理解しながらAMRのリスクに対処するための基盤として、多分野での対策を支援する最重要なプラットフォームである。

- WHO、OIE、FAO が協力することで、ワンヘルスアプローチを用いた参加国の支援が強化され、抗微生物剤の使用規制や抗微生物剤適正使用支援に係る手引き作成が進捗した。さらにサーベイランス、抗微生物剤適正使用支援、抗微生物剤使用量のモニタリング、感染制御と感染管理、新規抗微生物剤や抗微生物剤代替物の研究開発のためのシステムを国際、地域、国レベルで強化するためのキャパシティービルディングがなされた。
 - アジア太平洋地域においては、すでに 28 カ国が NAP を策定しており、2019 年中には太平洋の島国での策定を目指している。
3. AMR 対策のための参加国と開発協力機関間のハイレベル公約
- 2016 年開催のアジア AMR 東京閣僚会議の後、各国政府のハイレベルにおいて公約が支持された。
 - 国レベルで複数領域にまたがる対策を監視するために分野横断的な委員会が設置された。
 - AMR は国際、地域レベルでの政治的、経済的会議において議題として取り上げられた。

ASPIRE の 4 項目、すなわちサーベイランスシステムと検査機関ネットワーク、医療マネジメント、抗微生物剤のアクセスと規制、研究開発を推し進めていくことが重要であることを確認し、短期中期的に以下の主要対策を実施しながら、この 4 項目を協力して実現することを確約する。

1. サーベイランスシステムと検査機関ネットワーク
 - ヒトの健康、農業、動物の分野において、AMR に関する国内サーベイランスシステムを強化するとともに、システムの連携を目指す。
2. 医療マネジメント
 - 高いレベルの感染制御と感染管理を採用、実施しながら、それらについての継続的な指導や情報共有を行うために、ヒトの健康、組織体制、獣医学サービス、農業畜産におけるシステム強化を行う。
3. 抗微生物剤のアクセスと規制
 - 抗微生物剤の質と安全を保証し、使用を制限するための枠組みを形成するなどして、ヒトの健康、農業、動物の分野における抗微生物剤の使用を評価、規制する。
4. 研究開発
 - 新規の抗微生物剤、抗微生物剤の代替物、迅速診断キット、感染制御と感染管理のための革新的機器に関する研究開発に対して国際、地域、国レベルの支援を行い、AMR 対策のための研究を推進する。

今後の方針

1. 参加国と協力機関が継続的に協業するためのプラットフォームとして ASPIRE を利用する。
2. 参加国の NAP の枠組みの中で ASPIRE の活動を実施する。
3. 参加国における主要な対策を継続的に支援し、その進捗状況を評価するメカニズムとして、ASPIRE Coordinating Committee を設立する。